

卒業生からの Message



学去学部被服学科第43回生
長崎大学 大学教育機能開発センター 助教

長澤多代さん

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。卒業生の長澤です。私は、被服学科を卒業した後、3年ほどデータベース関係の仕事をしていました。その後、筑波にある図書館情報大学の大学院に進学し、修士号を取り、博士後期課程に進学しました。そして、2002年に、長崎大学に新設された大学教育機能開発センターに着任しました。現在は、教育改善に関する業務を担当しながら、教員と図書館員が連携した授業のあり方を研究しています。今日は、この場を借りて、大学時代に図書館を利用した思い出、アメリカの大学生の図書館利用、そして図書館とのつきあい方についてお話しします。

大阪樟蔭女子大学の思い出

私が大阪樟蔭女子大学に入学したのは1991年の春です。大学時代には、コーラス部の活動をしたり、学園祭でファッションショーを企画したり、夜間の服飾専門学校に通ったりと大忙しの毎日でした。

図書館では、通学中に読む小説を借りたり、静かに勉強するために書庫内にある一人用の机（キャレル）を利用していました。これで図書館を十分に利用していると思っていました。大学の3年間はこのような過ぎました。

ところが、4年生のときに受講した「現代ファッション」（当時の担当は大丸弘先生）という科目が、私の図書館利用を大きく変えることになりました。授業を通して、まず、書誌（しょじ）や索引（さくいん）などの「二次資料」の存在を知ったのです。二次資料とは、探したい文献や資料などの一次資料を探すための道具です。最近では、電子媒体の情報が多くありますので、一次情報と二次情報とも言います。大丸先生は二次資料を「電話帳をイメージするとわかりやすいですよ」と説明して下さいました。電話帳は探したい電話番号（一次情報）が50音順で並べられている冊子（二次資料）ですよ。

世の中にはたくさんの種類の二次資料や二次情報があります。目録や百科事典、イエローページも二次資料です。二次資料を効果的に利用することによって、特定のテーマに関する資料や情報を効率よく探すことができます。そして、二次資料の使い方を教えたり、情報の探索を助けて下さるのが図書館員です。レポート課題を仕上げると

き、授業でわからない用語があったときには、先生に質問するのと同様に、図書館員に相談することができます。「現代ファッション」の授業では、私も覚えたての二次資料を使い、図書館員にたくさん質問をして口頭発表の原稿を仕上げました。この時になって、ようやく図書館を効果的に利用できるようになったと思いました。

アメリカの大学生たちの図書館利用

アメリカの大学生たちは、大学生活を通して、二次資料や図書館の利用法を徹底的に学びます。新入生オリエンテーション、1年次の必修英語、多くの教養科目や専門科目の中で、それぞれの科目内容に関係した二次資料の使い方を学習します。先生も、予習で多くの文献を読むように指示し、適切な文献を引用したレポートを求めます。文献の引用が適切でない単位を与えないほどです。また、すぐに「図書館に行って調べなさい」「図書館員にたずねなさい」とおっしゃいます。学生たちは、図書館員にさまざまな質問をしながら、難しい用語を調べたり、図書や雑誌を探して予習し、レポートや課題を仕上げます。図書館も夜遅くまで開いています。平日は午前0時、午前2時まで開いているのが当たり前で、24時間開いている図書館もあります。このような環境の中で、学生たちは朝から晩まで本当によく勉強します。

図書館とのつきあい方

皆さんも、樟蔭の図書館を多いに活用して、大学の学習生活を充実させて下さい。樟蔭の図書館が所蔵していない資料についても、他の図書館からそれを取り寄せてくれます。樟蔭の図書館を通して、世界中の図書館を利用することができるのです。また、図書館で最も大事なものは、情報探索の専門家である図書館員です。図書館員はいつでも皆さんからの質問を待っています。ですから、何でも、気兼ねなく、図書館員にたずねて下さい。

大学時代に身につけた図書館の効果的な利用法は、将来、市立図書館や県立図書館を利用するときにも応用できます。図書館と図書館員を十分に活用することによって皆さんの学生生活が充実すること、また、卒業後の生活が充実することを、樟蔭の卒業生として、図書館情報学の研究者として心より願っております。